

たまたまにやっぴゃー

第1回 ケーブルぐらいちゃんと巻けよな!

今月から突然始めるこのコーナー、インプレスグループの計算機/機材を管理しているこの私が常日頃から「あ~これは良くない」「いったいこれはどうなってるんだ!」「こいつら本気か?」と思うことを、怒りをまじえながらレクチャーする。初心者ユーザーはきちっと参考にしてもらいたい。第1回は、現代デジタル計算機の基本、「ケーブル」について、一席ぶたせていただく。このページを読んでくれた読者諸兄は、さっそく弟子にしてあげよう。:-)世間知らずの若造どもに日夜「たあっ!」と檄を飛ばしている私だが、ビシビシいくからそのつもりで。

巻き終わったらまっすぐに引っ張ってみよう。絡まったりねじれたりしないはずだ。

〇〇 まずは机の下をチェック

あなたが日夜使用している計算機(パソコンも含む)には何本のケーブルが接続されているだろうか。机の上だけで収まっているケーブルはどれも短く、取り回しには苦勞しない。一方、机の下に行っている長いケーブルはゴチャゴチャに絡み合っていないだろうか? ケーブルは離れた機材を接続するためのものであり、余り(プロは余長<よちょう>と呼ぶ)があって当然。余長をいかにスマートにまとめるかが、プロと素人の差である。

〇〇 ねじれないように巻く方法

まずは基本から。ケーブルがねじれるきっかけとなるのは、巻いてあるケーブルをほどくときと片付ける際に巻くときだ。実際にやってみれば分かるが、何も考えずにほどいたケーブルは、どんどんねじれてくる。ねじれをふせぐためには、丸めたケーブルを回転させながら巻く。間違っても毛糸を巻くときのような、片手で輪を持ちもう片方の手首のスナップを利かせて巻くなんてことは、絶対にしてはならない。あくまでも両手で輪を持って回転させる。ただし、この方法ではほどくときにも「両手で回す」という作業が必要となる。

〇〇 だれだ! こんな敷設したやつは

ケーブルが細く、しかも「より線」で余長が短い場合、折り曲げて余長を束ねる方法があるが、余長が長い場合は太くて邪魔なものになってしまう。ケーブルが太く硬い場合は、折り曲げると断線する。やはり、よいケーブルの扱い方は丸めておくことだ。また、断線させてしまう場合の多くは引っ張りや折り曲げもあるが、ねじれによる場合も多い。ねじれの原因は、敷設作業をしたヤツの誤った扱いから生じているのはいままでもない。では、ねじれないケーブルの扱いとは、いったいどんな方法なのだろうか?

この応用として、ほどくときにも考えずに、まっすぐ引っ張ってもねじれない便利な巻き方がある。少々難しいが、写真を見ながら実際にケーブルを持って練習していただきたい。まずは基本パターンで1回巻く(写真1)。左手に束を持ち、そして2回目に巻くときに、ケーブルをつまんでいる右手の指で転がすようにケーブルをよじる(写真2)。写真3のようにケーブルがよじれたら、左手に持っている束にまとめよう。右手がケーブルの下をくぐるような形にすることがコツだ。あとは1回目と2回目の動作を交互に繰り返していく。

〇〇 巻いただけではダメ

巻いただけのケーブルは箱に入れば当然、簡単にほどけてしまう。何本ものケーブルを1つの箱に入れると絡み合ってしまう、使うときにはコンガラがったケーブルすべてをほどいてからでないと...(たあっ! 誰だ、こんな巻き方したのは)。だから、巻いたケーブルは必ず縛っておく。買って来たばかりの製品に付属している各種ケーブルを見ると、束ねられているケーブルがほどけないように止めているバンドがある。「ねじりっこ」だ。機材を設置する場合には、「ねじりっこ」をほどきケーブルをのばして設置する。外された「ねじりっこ」はたいてい梱包のビニール袋などいっしょに捨てられてしまう運命をたどるが、実にもったいない。束ねたケーブルの余長を固定するのに「ねじりっこ」を使わない手はない。

〇〇 まずはテレビ局で修業しな!

今回紹介したケーブルの扱いは、実はテレビ局でスポーツ中継のアリバイトをしたときに、現場で教えてもらったことの受け売りだ。ケーブルのプロになるなら、やはり一度はテレビ局に修業に行くべきだ。でないとコワーイ管理者から「たあっ!」を連発されることになる。



写真1
1回目。まずは普通のとおり巻く。

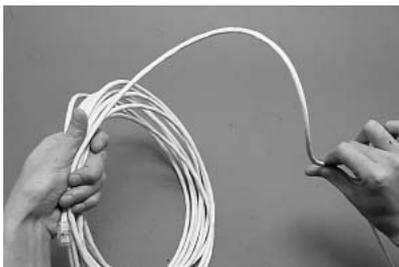


写真2
2回目。ケーブルを右手の親指で押し出すようによじて1回転させながら、徐々に右手を左手のケーブルの束に引き寄せる。

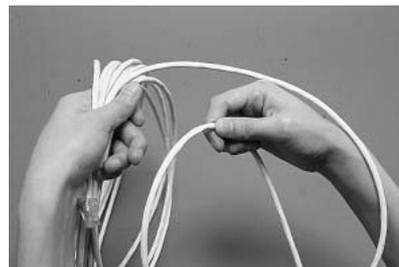


写真3
このように右手首にケーブルが当たったら、そのまま左手に持ったケーブルの束に重ねる。以後2種類の方法で交互に巻いていく。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp